

『統計検定準 1 級対応 統計学実践ワークブック』

(日本統計学会 編, 学術図書出版社)

正誤表 第 1 版 第 5 刷 用

頁	場所	誤	正
65	8 行目	「これを, 最尤推定量の漸近正規性 (asymptotic normality) という。」 に脚注として以下を追加してください. なお, 漸近正規性をもつ推定量に対して, その極限分布の分散がク ラーメル・ラオ不等式の下限を達成することを漸近有効性と定義する こともあるが, 分散の極限と極限分布の分散は一般には異なるので, 上記の漸近有効性の定義とは厳密には異なる.	
66	下 14 行目	半径 r を	半径を
66	下 11 行目	このとき	コインの半径は平均 r の確率分布 に独立同一に従うとするとき
67	下 1 行目	$\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$	$\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$
68	4 行目	最尤推定量である.	最尤推定値である. これより 最尤推定量は $\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$ である.
69	4 行目	「ある。」の後に以下を追加してください. ただし, これはコインの半径が平均 r の分布に従うと仮定したからで あり, コインの面積が平均 πr^2 の分布に従うなら, 観測面積の平均を 用いても問題ないことに注意.	
101	5 行目	6 人に与えられる順位の組合せ	群 A の 3 人に与えられる順位の 組合せ
101	下 2 行目	7 人に与えられる順位の組合せ	群 A の 3 人に与えられる順位の 組合せ
105	14 行目	(x_i, y_i) と (x_j, y_j) ($i \neq j$)	(x_i, y_i) と (x_j, y_j) ($i < j$)
106	下 14 行目	6 人に与えられる順位の組合せ	A 群 3 人に与えられる順位の組 合せ
124	3 行目	$X_t = \sum_{i=1}^{N_t} U_k$	$X_t = \sum_{k=1}^{N_t} U_k$
166	下 14 行目	特性 (characteristics)	特性 (characteristics)

175 式 (20.6) $S_{[k]} = \sum_{i=1}^N \sum_{j=1}^2 (\bar{y}_{[k]j} - \bar{y})^2$

178 下 1 行目 $2^{3-1} = 8$

185 下 2 行目 すべて調査単位

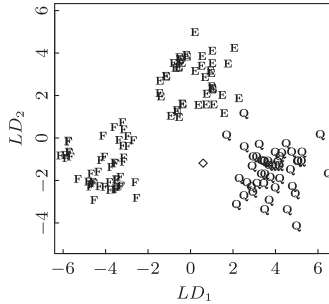
191 下 8 行目 修正項 $(N - n)(N - 1)$

194 下 7 行目 $+\cdots + (5 - 5.5)(5 - 4.5)$

198 例 2 [1] 小テストの結果を図 22.1 のように第 1, 第 2 主成分で

204 下 7 行目 $(\hat{\mathbf{w}}^\top \bar{\mathbf{x}}_1 + \hat{\mathbf{w}}^\top \bar{\mathbf{x}}_2)/2$

213 図 23.4



$S_{[k]} = \sum_{i=1}^{N/2} \sum_{j=1}^2 (\bar{y}_{[k]j} - \bar{y})^2$

$2^{4-1} = 8$

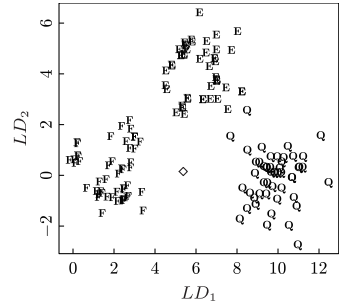
すべての調査単位

修正項 $(N - n)/(N - 1)$

$+\cdots + (5 - 5.5)(4 - 4.5)$

小テストの結果を第 1, 第 2 主成分で

$(\hat{\mathbf{w}}^\top \bar{\mathbf{x}}^{(1)} + \hat{\mathbf{w}}^\top \bar{\mathbf{x}}^{(2)})/2$



(軸の範囲および◇の位置を変更)

213 5 行目 アルファベット L を表すサンプル $\mathbf{x}_L = (2.5, -1.1, 0.0, -0.8, 1.0)^\top$

213 8 行目 新しく観測した L

214 下 2 行目 L に対応する新しいサンプルを射影した点 $(\mathbf{w}_1^\top \mathbf{x}_L, \mathbf{w}_2^\top \mathbf{x}_L) = (0.44, -1.24)$ からの距離はそれぞれ 8.05, 2.10, 9.60 である。

216 下 10 行目 $d_m(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = \sum_{i=1}^p (|x_i - y_i|^m)^{1/m}$

242 1 行目 $|\phi| > 1$ ならば

250 下 7 行目 周期が λ_1 から λ_2 の変動に帰着する変動

272 14 行目 性質 1 $A, B \in V$ が連結でないなら, 因子 A, B は独立である。

アルファベット A を表すサンプル $\mathbf{x}_A = (0.9, 0.7, 0.8, 2.1, 5.2)^\top$

新しく観測した $\mathbf{x}_A$

A に対応する新しいサンプルを射影した点 $(\mathbf{w}_1^\top \mathbf{x}_A, \mathbf{w}_2^\top \mathbf{x}_A) = (5.52, 0.31)$ からの距離はそれぞれ 4.01, 3.57, 4.41 である。

$d_m(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = \left(\sum_{i=1}^p |x_i - y_i|^m \right)^{1/m}$

$|\phi_1| > 1$ ならば

周波数 λ_1 から λ_2 に帰着する変動

性質 1 $A, B \in V$ が連結でないことと, 因子 A, B が独立であることは同値である。

282	12 行目	$\exp\left(-\frac{(x_i - \mu)}{2\sigma^2}\right)$	$\exp\left(-\frac{(x_i - \mu)^{\textcolor{red}{2}}}{2\sigma^2}\right)$
285	下 6 行目	ア リ ゴ リ ズ ム	ア ル ゴ リ ズ ム
314	下 9 行目	$\{g_1(x_1), \dots, g_j(x_m)\}$	$\{g_{\textcolor{red}{j}}(x_1), \dots, g_j(x_m)\}$
317	下 10 行目	標準誤差 を $\widehat{\text{se}}(x)$ を求め	標準誤差 $\widehat{\text{se}}(x)$ を求め
